

27 街路事業の推進について

(国土交通省関係)

要望内容

街路事業の財源確保

(要 旨)

急速な高齢化の進展や人口減少にも直面する中、持続的に都市の活力を維持・向上していくためには、都市機能を集積させる「集約型都市構造」への転換が求められており、コンパクトなまちづくりを推進する必要があります。

このため、本市では、都心や拠点地区間の連携を強化し、円滑な都市活動と安全・快適な生活を支える街路の整備を進めており、交通の円滑化や市街地の一体化、踏切除却により安全確保を図る連続立体交差事業や、道路空間を車中心から人中心へ転換する事業に重点的に取り組んでいます。

また、近年激甚化・頻発化している豪雨災害や切迫する南海トラフ巨大地震に対する防災・減災対策として、緊急輸送道路の整備や無電柱化など国土強靱化を着実に推進するとともに、市民の安全・安心な日常生活を確保するため、通学路等の交通安全対策などについて、「選択と集中」を図り、整備効果の高い路線から整備を進めています。

つきましては、これら街路事業の着実な推進のための財源確保について、格別の御配慮をお願いいたします。

(参 考)

街路事業の概要

区 分	事 業 期 間	事業区間 延 長	道路幅員	総 事 業 費	令和 8 年度 末の進捗率 (見込み)	令和 9 年度 以降 残 事 業 費
連続立体交差事業による安全・安心な地域づくりの推進						
J R 山 陽 本 線 (東部地区連続 立体交差事業)	平成 5 年度～ 令和 20 年度頃	(全体) 5,100m (市域) 1,927m	—	(全体) 915 億円 (市域) 370 億円	34.6%	241 億 9,946 万円
※ 事業期間及び総事業費は現在精査中。						
広島都心地区（Ⅱ期）都市再生整備計画						
南 1 区 19 号 線	平成 22 年度～ 令和 11 年度頃	390m	13m	16 億円	65.9%	5 億 3,236 万円
都市基盤となる骨格道路等の整備						
中 筋 温 品 線	平成 12 年度～ 令和 10 年度頃	2,070m	14～47m	236 億円	71.4%	67 億 5,706 万円
吉島観音線ほか 1 路線	平成 7 年度～ 令和 14 年度頃	1,190m	20～30m	86 億円	92.1%	6 億 8,033 万円
段原蟹屋線ほか 1 路線	平成 7 年度～ 令和 13 年度頃	633m	25～32m	73 億円	94.9%	3 億 7,518 万円
無電柱化の推進による防災や安全・円滑な交通の確保						
霞 庚 午 線	平成 10 年度～ 令和 10 年度頃	1,360m	30m	233 億円	79.7%	45 億 2,494 万円
東雲大州線ほか 1 路線	平成 20 年度～ 令和 10 年度頃	590m	25～27m	79 億円	98.0%	1 億 6,021 万円
通学路等における交通安全対策の推進						
長 東 八 木 線 (4 工区)	平成 29 年度～ 令和 10 年度頃	480m	22～25m	31 億円	53.7%	14 億 3,408 万円
畑口寺田線ほか 1 路線	平成 27 年度～ 令和 10 年度頃	880m	16～18m	33 億円	66.6%	11 億 255 万円
西 原 山 本 線 (4 工区)	令和 9 年度～ (令和 8 年度事業認可予定)	240m	16m	19 億円	—	19 億円
安全・安心なまちづくりを推進する道路等の整備						
駅 前 線	平成 8 年度～ 令和 10 年度頃	977m	14m	54 億円	65.5%	18 億 5,006 万円
花 都 川 線	平成 9 年度～ 令和 10 年度頃	320m	16m	16 億円	72.3%	4 億 4,299 万円
山 の 手 線	平成 9 年度～ 令和 10 年度頃	1,050m	18m	57 億円	30.0%	39 億 9,184 万円
青 崎 畝 線	平成 5 年度～ 令和 20 年度頃	1,466m	16m	51 億円	55.8%	22 億 5,269 万円

(注) 事業期間の終期が令和 10 年度頃の事業については、現在、事業期間を精査中。